



写栖
石



黄の帝問ひて曰く

八深と浅の深と浅とは如何なる事ぞや

素女曰く

八深と浅とは八寸

とは深く

差入れば

八息につき

浅く抜き

上げて六息

つく事也

深く入れて

八度突き

浅くぬき

て六度つ

く事非

本

浅くとは

現今結よ

り玄珠に

至るを云

ひ深くは

は親女鼠

より谷美

に玉了を

去ふ

右淫乱の

説に非ず交合の要儀養生の神術也
交合の道に其法九あり



北極

昆戸

愈鼠

谷美

玄珠

嬰鼠

菱齒

琴絃

一寸ニテ
琴絃ト云フ

天地陰陽交合
して万物生じ
男女陰陽交合
して子孫と生
ず天地の陰陽交
わりたる時は四時
ならず万物生
せず男女の陰陽
合せざる時は人
倫滅して子孫
絶中然雖も交
合すに秘傳の
要用あり
是誠養生の
要儀治病の妙
道也今珍しく
ともに述ぶん深
慎みて撰に人
に示すべからず
画は九勢の要
術を云ふなり
るものなり

一龍玉勢

女人仰き伏さしめ其股を開かしめ

男子其股の間により腹の上にかかり

伏し先ず口を吸ふべし女人は腰

と張り玉門をもち上げ玉茎を

吸ふべし田力子は玉茎らして玉門の

あわせめをなすべし

潤へるに従ひて

静かに玉茎

を入るべし

而して女人の

淫念も長だ

動じて五腕の

氣もふらば

静かに玉茎

を動かす

八深六浅の法

を行ふ時は

両情共に

樂み百病

勿ちりして

消除する也



二虎歩勢

女をうつむきに這わしめ男

其しり玉にかゝるまゝの女の

腰にあり附き即ち玉茎を

へらぐし五深六浅の

法を行ふ時玉門

は張り膨れ

津液外に

流れ玉門

の内よぐ

むらもの也

男意

ゆるく

伸ひ

女情甚

悦して互に

血脈流通すら也



三猿持勢

田力子吐して兩の股を合せ

両足を揃え差出す

女人兩の股を揃え

男子の腿の上に

座し女の両足

にて男の

腰を

挟み

即ち両陰

和合して玉門

湿ふ時玉共玉を

差入るべし田力子

女の尻を抱て九深

五浅の法を行ふ

津液流出して

百病頓に

愉ゆら也



四蟬附勢

女人うつむきと伏し
両手とつき、左の股を

差のぶ右の股を

屈めて田カ子は

後へに在し

即ち玉茎

を差し

入れて

玉珠

を

たき

七深

八浅

の法を

行ふ

べし

玉門

はふくれ

張るに據りて

思ひの外に所にかかり

残り無く津液出すもの也



五亀騰勢

女人仰きに伏さしめ

田力の両手とて女の

西足を捕へ

女の乳の所

まを押し

かゝめ

即ち

玉茎

と差し

込み

五浅

六深の

法を

行ふ

時

女人

欲情

自ら

勅じて
美快を捉め

液汁流れ出る

事限り可し



六鳳翔勢

女人床の

上と横

様

に

仰きに

伏さし

めて女

自ら

両手

ら

両股

を抱

え両

足を

腹の上

にかゝめ

置く田方は

床の下より

立ち乍ら玉茎を

深く差入れて玉門の

両葉を左右にあじらべし

女自ら腰を動かす時九深八浅の法を行ふべし

これ秘術の口傳也



七免吹物

男か子仰きに伏し
両足を差し

伸べ女は

田方の股の

上のり

女顔を

田方の足

の方に

向ふし

女の手

にて

田方の

玉茎

と握り

玉門に

あて琴

絃にのぞま

しぬ温ひ

生ずる時

深く差入れて

浅深の法を行ふ

ごし女の心中も爽快

なる事比ひ



八重心接執方

二女を用申る法は、男女の
 交合する時の如く胸を合せて
 仰きたる女の股の間にかゝり、
 両女の玉門を相合したるを
 ながめ膨れ湿ふ時先ず

下の玉門と玉共を
 左入れて

静に

出し

入き

する

なり

上の玉

門を廣み

を起し津液

流る時即ち

上の玉門に差

移して静に

深淺の法を行ふ

又下の玉門を廣みを

なする時又

下の玉門に移して申る

申る深淺を行ふ小女共を氣を減しても

男子精汁を草で減すべからずは法は一切の病を治す



九鶴文枕力

男子四つす女手にて男の首を
 引き寄せ女の足にて男の腰を
 こうちよとひ男の右手にて女の
 左の股を押し上げ女の足首を
 男の肩に打ち懸けさせ二人の
 身をピッタリ合せて女の手にて
 玉茎を握り玉門にあてり
 其反齒に及びしめ

玉門頻に
 湿り

玉
 茎
 も
 息
 だ
 出
 せ
 ぬ
 ば
 た
 れ
 ば
 谷
 実



には差込みて静に動かす九浅
 一深の法を行ふ玉門は女杖の所へ
 自然にあたり津液流れ出る事
 瀧の如し男女女ともに先巡り血通
 して諸病忽ちに愉る也

秘法別傳

先ず田方子は凡執力の妙術を
意得して後には法を行ふし
指を吸込み女人狂乱して
おろろろ事限り



極秘傳

夫れ秘中の秘に
して妙法中の妙
法なり



